ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

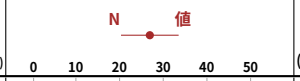
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-4	調査位置				北　緯	36 ° 45 ’ 36.6500 ”
発注機関	栃木県矢板土木事務所			調査期間	2009-01-06 ～ 2009-01-07	東　経	139 ° 50 ’ 42.8400 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	252.64 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	
総掘進長	8.00 m							試錐機		ハンマー落下用具	
								エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	252.04	0.60	0.60		シルト (M)	暗褐		軟らかい	含水・粘性中位で非常に軟らかい。		01/07 1.30
1					礫混り粘土 (CH-G)	茶褐		軟らかい	少々の撹乱を受けた火山灰土に類する。土は軟らかく、軽石粒やφ10mm以下の浮石・火山礫を不均質に混在する。1～2mにかけて粘性上位で非常に軟らかい。以深、スコリア粒を混在。		
2	250.24	1.80	2.40								
	249.64	0.60	3.00		粘土混り砂礫 (GS-C)	暗茶灰	非常に緩い		φ5～20mmを主体に、稀にφ40mm内外を点在。マトリックスは多くの粘土分と砂分により、非常に緩く充填する。		
3					シルト混り砂礫 (GS-M)	暗褐			多量の黒色シルト(有機質)を混じる緩い礫質土。礫φ10mm内外を主に、コア長5cm程度の玉石を点在。		
	248.79	0.85	3.85			暗褐灰					
4					粘土混り砂礫 (GS-C)	茶褐	緩い		φ10～20mmの亜角礫を多くの粘土分と砂分が緩く埋める。辛うじて礫分含有が過半数を超える粒度支配。 芯まで風化した脆い礫の混入が目立つ。		
5											
	246.94	1.85	5.70								
6					溶結凝灰岩 (Wtf)	暗青灰			上部5cmは強風化し、岩芯に至り組織破壊され、非常に脆弱な岩質と化す（D級区分）。以深、ダイヤモンドビットの使用が不可欠な中硬区分の岩塊硬度。5.75～5.90m間、密着したヘアークラックが発達し5cm内外の短柱状に分離（CL級相当）するが、その周辺は幾分か劣化しているが、相対的には亀裂頻度は非常に少なく、50cm以上の棒状コア形状を大半とする。		
7											
8	244.64	2.30	8.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1			1 / 30
1.45	30			30
2.15	1	1	2 / 15	4 / 35
2.50				
3.15	1 / 20		1	2 / 30
3.45				
4.15	1	1	2	4 / 30
4.45				
5.15	3	1	2	6 / 30
5.45	50 / 0			50 / 0
6.00				
6.00				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						01/06
						01/07